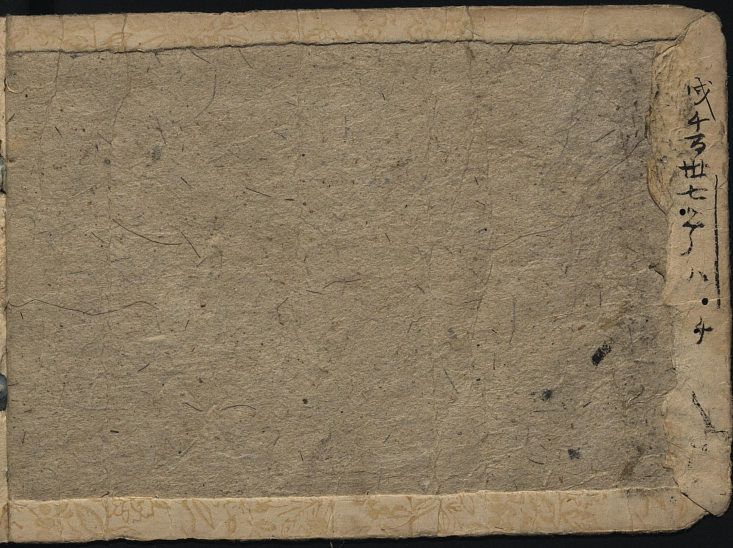
大和道のもくろく



大和道ゆきぶり序

夫大和国人皇元初皇居地にして
宮殿をかまへ給ひ穀類殖他国に
勝れりとて古来大上国とす東西
十五里南北二十餘里管郡十五
高四十九万石余　神社佛閣の美
さ事ハ天なり山川地澤名區多
らさるなく草木多く獣名勝にけ
て数へがたし　古人ゆへ国をめで
事ハ万葉集より代々の詩歌をも
てあらはせり　此国に越ふ人郷道多
くてハ及難ゆへなり

寸是より先年數度みちびきの書
ありしことを語すくれしとせば年越
山坂水路おのおのに二ツ記し置
たる法花の書来書度りさいり出
て是を梓にせて廣くせば花
もみちりけるふ道路をたとと
してもく探陽の人路金あらぬ
せちうをよいをかくなるふる事
なりぬ

天明元年秋九月

大和三山下田居叟識

凡例

一此一冊は南都より西り初めて一國を巡り又南都へ帰る乃此を記を繪図を添ふ引合て見るべし

一大和國中神社佛閣本末開基寺院宗旨等を委しく記を

一名所古跡其所々を記を

一居のり旅宿茶店産物ホ委しく記を

一古跡ゝ社も巡詣ゝ遠き
も略せるもあり
一をゞゝざる寺社も記詣り
近きもまるを用捨い其人
乃心ゝ任をゞし
○石筋ゝみまる社の石
●石をゞみたりざれも名
るれる社ゝ石方角こち
のりゝ
□鑿宿ゝまるし
▲石筋村里の石

△石筋をもとまる石なり
一卦とゝいい石筋之●石ゝ卦の
みいより石ゝそゝさたゝく
本石へ出る卦なり
一山坂悪く記を書付ること
もる平地と知べし
一京都より大和へ出るゝい先
南部へ入し巡詣ゝ京
姫越より越べし
一京より大坂へ行人い南部
より西山ゝ物して南部へ

南より来る人も出谷より
北南郡へ入巡信紙南郡江
考へ申べし
一巡信紙たゞ小絵図方ばく
尾のり付添くところ〳〵み
て考合せ通信紙持申べ
み旅宿〳〵のあらゝみ書
同て申べし
一小冊と繪図を尾勇乃遠
近を知らんたゞみ紙にて
申べ引みゝ信紙者し

一東国より来る人も出谷より
北南郡へ入巡信紙南郡江
考へ申べし
一巡信紙たゞ小絵図方ばく
尾のり付添くところ〳〵み
て考合せ通信紙持申べ
み旅宿〳〵のあらゝみ書
同て申べし
一小冊と繪図を尾勇乃遠
近を知らんたゞみ紙にて
申べ引みゝ信紙者し

粗委しき事を享保廿大和志・延宝の大和名所記・近畿名高言が編集廿大和名勝志をよるべし 就中吉野南郡をむしろより名不記なと数くあり其書ゆゑて捜尋知るべし

元禄廿

大和古跡考廿之巻

○南郡

大和廿小方ゆゑて添上郡之城の国境なり夫南郡とゆふ

元明・元正・聖武・孝謙・廃帝・称徳・光仁・桓武まで八代皇居の地なりしを桓武廿此代より都を山城へ移さるゝ故ゆゑ平城帝此儀位の後廿地名まゝ

なをび南郡と唱へ来ると見へ

ゆゑ平城・寧楽・奈良・楽と

もゆへ今和国廿大郡名ゆゑて

万物繁昌を中ゝも名産と
称ずるハ晒布 蕎麦 酒 刀 鐙
鞍 足袋 團扇などなり名所
○表日山○二荒山○男体山
○若くさ山○佐保山○名取山
○さゝ川○花火畑○雪渕澤
○畑ヶ丸池○猿沢池△八条ゝ
○二荒山雪○南部霞 霧花○雲
井坂面○東大寺○裏橋 紅人
○猿沢池月○春日野鹿○佐保
川蛍○毛利名所ちゝぐく峯
てかゞゝがゝ○真福寺丸八重桜

○男体山 紀氏 表秋 丸 徐ゝ
○七大寺 真福寺 東大寺
元興寺 西大寺 薬師寺 法隆寺
招提寺 大安寺 ゑのり京八十里
江戸八百廿里 大坂八里 伊勢山田
三十里 八幡八里 名野山十八里
堺十里
△南部の内 恵光 紀寺社ハ南部
丸宿ゝて 来るべくべ 法を
ちるさど

○春日大明神 日本廿二社の内
仁和寺 丸東丸大名井丸宮宮

の出入所。接戸 車座どうさく
樓門より出廊の内へ入て 表日系
祢記座 延喜式
第一 武甕槌命 第二 經津主命
第三天児屋根命 第四 姫大祢系
祢後系雲二年出雲国造
瑞籬の内 中殿 小殿 小社 教主
ひろ 酒屋祢 竈屋祢 護中社
紀伊の社。又丁ゆ丑水屋社又上ノ
み屋社 ゆるみ社 ゆるみ上江ゆ
若宮 天押雲命 長祢記年出張
出雲屋 其外ゆ公内結 真福寺の
俗社家など出宿社屋と称どる
もの多し 社領二万弐百石余
社家十二家 称宜数百人ゆる
毎月 朔日 十一日 廿一日 楽ゆ
二月十一月上ノ申大宮系勅使
ゆ十一月廿七日若宮系雅子系
理社 牡丹を献ど出奉行系二国
の大名 雅楽寮社名代行列ゆ
廿八日後日社 紀記座の所勅ゆる
多社 祝式社ゆ求ゆて見る
ばし。祢使のよしみそ

町ありと雖多し

○興福寺　七大寺の内

一名厩坂寺又山階寺和銅三年
藤原不比等建立し又城に
し奈良に厩坂の移さる春日
神宮寺と南大門　廻廊
金堂釈迦　講堂　西金堂　南円堂
鐘楼　鼓楼　小堂　南堂　北堂
二年堂上　今東西小門　東金堂
小子堂　食堂　又重塔　又宝
塔　宝蔵あり　近年南円堂再
興ありし西国三十三所第九番の

札不親切也。寺領三万七千六百
石余　宗旨八法相宗　一条院
の宮　大乗院門跡　ヒケ乃院家
其外八十余院あり　勅願坊八源
義経の宿居らせしなり又塔
院法二十家あり。時く維摩會
あり。二月朝日より七日迄影供
南大門の前にて猿楽
たちらう。南大門の前に猿沢
の池。夜かけ抑。采女社。揚柴
社さらう。八重撫多し。宝蔵
鳴不鳴　泗濱磬　其外数く

宝蔵あり

○東大寺　七大寺の内

一名大華厳寺又城大寺又総国分寺又金光明比丘尼護国之寺

天平勝宝年中聖武帝建立

建久六年後鳥坊再建七のくら

殿く堂上今の堂宝永年中

再建るり　胡野辯載曰大佛殿

高サ十丈六尺東西廿九丈南北

十七丈釈迦像高サ八丈二尺又ハ

面長さ丈六尺廣九尺又ハ目長さ

三尺九寸口又八寸鼻長サ

又尺六寸中指長八尺廣さ三尺

八尺七寸膝高七尺螺髮九百六十

六大徳るさを丈二尺六寸

九尺弐寸高サ八寸ろの堂のめぐり

巡廊あり中門ハ二天の像南大

門ハ二王あり門内の左ハ獅子

あり山南門ゑりあり象此物

西ハ門二ケ所南ハ戒壇○東南

院○東ハ二月堂本名羅索堂

○三月堂本名法花堂○八月堂

本名三昧堂○悉佛堂○祖師堂

○宝蔵○五仏会院○る紀ゑる

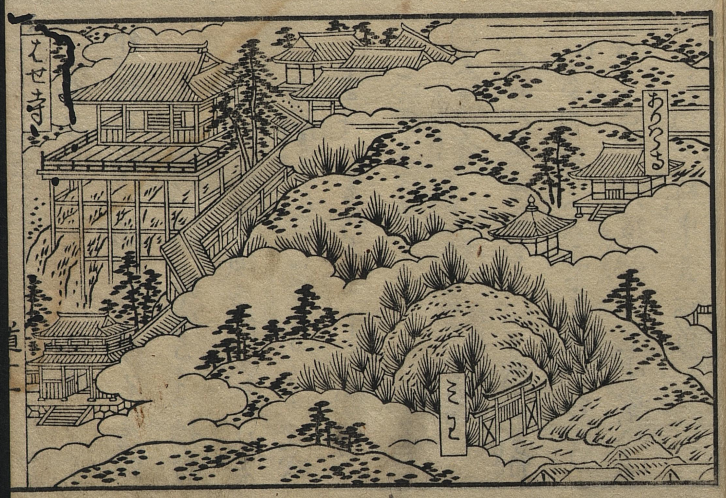
[illegible]宗自華厳之論八宗兼学
僧坊のまくさみ。大幻塵。葉菊
侍ひ名香あり境内ハ小社数多
あり。本願塚。こぐち井。八幡ろ
池。小ひきの荒神

○八幡社　本大きの往寺なり
勝宝元年行基ハ造営ス
町ハ民ゟ多し。名井ハ大仏の
中門前ハ有り。祝家ハ

○元興寺　七大寺の内
金堂釈迦　八重塔　僧坊一宇ハ
社昔ハ市郡　[illegible]

[illegible]ハ
此地ハ猥さる大寺なりしが
破壊して古院の名ゟ町名ハ
なりて今ハあり昔ハ六町ハ
方ハ境内なり今ハ九十石
宗旨法相ハ言

元興寺ハ院ハ古名
極楽院　光明院　中院　小塔院
[illegible]堂今ハ法門　勝南院　十輪院
瓦堂　[illegible]　福智院　吉祥
堂　毘沙門堂　小堂　南堂
[illegible]堂　下ハ堂下ハ門　乙納堂


えせ寺
あらひくる
そこ

春日
大ぶの
八まんけ

林堂院　名坊　納院

外に極楽院百石　福加院二千石　不空院千石

常住院五十石（俗井参る）　白毫院五十石（俗井参る）

宗徳院五十石（大和大納言参る）　弥陀寺二千石（大徳の時代長屋列）　安楽寺二千石　建城寺二千石　華厳寺百石　十輪院五十石

西光寺二千石

○大安寺　昔は七大寺の内に今は退転して俗家に振捨てとかゝる

ならの大いの町西南にあり此寺も昔は

いと市郡にあつて生駒山地にあり

つさ〳〵後退転して小堂八棟

の社のみ野中にあり

○薬師院

今廃人住居あり

○阿閦寺

荒廃

○般若寺　ならの坂町にあり　ならの京町

本堂文殊　十二重の石塔一基

俗名一字屋武帝建立と云　観

賢俗西国基と云むかしは大寺

にて大伽藍なりと云居たまし

よりは平記よりは今は絶のふる

なりする仏二十石宗有寺家庭

山城国　宇治郡　宇治郡

名標なりむうい平野の
三間ととなとつひ一ぱ一ぱみ
義京都通公墓のなりしなる
○眉間る
又佐保るもつ聖武帝 建立
ホ堂 記書堂 麦宝堂 鐘楼
法寺社みる 百石宗旨 律
●ひるのうしろみ聖武帝の淺
光明皇后の淺などなり。佐保
のうらふもひ山のひなり
○法華寺 寺えらの西
一名國分尼寺義京ふ法名 建立

と蒙花物語みみ又い光明皇后
建立ともつ尼なるなり。撰堂
ホ堂記書。講堂・三重塔・鐘楼
教多なり寺記弐百廿五石宗旨ハ
表言律○古 尼の御工そ小史弘物るり
●ひのうしに元明帝 元正帝の
淺あり
○海龍王る 法華るれ少方
一名眼る又名隅る ホ堂記書
西堂 護摩堂 經堂 光明皇
后建立る 百石宗旨律○昔
相互自筆れ大安るの縁起ひるに

●佛素を

○不退寺　海龍王寺のゆゑなり

平城帝の宮殿をてゝ寺となしたる
玉水業平建立なる云ふ所の記
多宝塔　往時社あり　記八十石
宗右律○業平像自筆の賛あり

○奥福院　不退寺のうち

石塔あり　記弐百石宗右浄土宗之

●元南都より山ゆき十二ケ寺云
る記あり　白毫寺也

狭井社　天満天神　御霊社
鏡明神　水宮社　祇園社

韓国社　ふる社　法華寺社
ひさしあり　縁宿社あるべし
て系備をへ

●恵厚山　南都より二里東のうち
南都所のうちより乙巻
系成るゆゑ虚澄和尚開基寺堂
弥陀　復古堂　昭堂　多宝塔
宝殿　浴室　門系丈六　二ツ
ひろ　函嶺の地なる記弐百二十
丈石宗右　伽藍二十ケ余あり
〈時堂口ゆゑ出る

●山村系所なる宮　石仏あり
百ひろ十丈丁程東北山ゆゑ仏記

三百石宗者採穿所のり

夢解村　ねらより壱里宿あり

○山里北の入口西ゟ之入南北入口
東ゟ之入二ケ所ある子安地蔵堂あり
あるゝも子安堂の夢を出を
○南出口北西ゟ池あり名なる池と
つゝ古名ハ是和泉の池名あり
△所の内より也入南へ入七丁行
てもゞぐいぜんあり
●菩提山　ゑとぐより壱里ゞり
東の山北ゟあり
正暦寺　龍華樹院と号ス正暦年中
伊正勇後建之建保二年信承

伊正再建　本堂薬師　灌頂堂
釈迦堂　如法堂　地蔵堂　施
餓鬼堂　三重塔　宝殿　治宝
伊房記十ケ寺ある外二百石ゟ言宗
大寺先建ス
●虚空蔵寺　ゞぐいぜんより市の平
出る所なり
弘仁ゟ之備堂二ケ伊房一ケ
本尊虚空蔵菩薩弘仁年中
弘法大師建之
●本光明寺　ゑとぐより八丁東
ゟ外二石入斗余堂一ケ行
宗旨ゟ言絵

撫牛村 芋縄村より一里宿内西の方の熊田一反あり

●乃ち城東より撫牛村に至る東西撫牛人丸社前塚あり

▲**在原村菜屋** 乃ち牛の村でき宿あり

○**在原寺** 本尊阿弥

堂一宇る紀氏石宗右衛門縁起

在原業平法名堂一宇

▲**川原城村** 丹波国六丁えり

○此所に布留明神社る居あり

額岩上大明神社る居より入

布留村が桃尾山内へまいり

丹波国哥一出る二里半ばかりこ

●**良因寺** 布留村より素性法師

住しるより遍照も此所にてうみ

住しとも良因寺素性が姓名云

●**布留社** 廿二社の内 乃ち東十八丁

布留村より布留御霊神社武

神反已埋殺此内を神輿と称

と称反宝殿小社あり七月七日

笈渡しとて永久る龍経るの

絵蘭年に大般若経紙よむ

○るとし○中略

●**桃尾** 桃尾村布留社より十八丁

だより東のうより

龍猛菩薩の八義淵伽藍開基
本堂観音　阿弥陀堂　不動堂
伽藍十六字石仏百石宗旨基
○瀧あり　桃尾瀧と云　古奇よりと
布哥の瀧なり
△是より布哥の社へ　すぐり社
中と南へ　ぬけて三町
内山　金剛系院
永久寺と云　永久年中建立
法親王　釋亮惠開基なり
本堂　観音堂　地蔵堂　不動堂
薬師堂　祖師堂　宝塔　鐘撞
鼓撞　鎮守稲荷　伽藍　仏十仏字
石仏石宗旨と言　大師先徳
○後醍醐帝　大塔宮など　潜幸あり
しるなり
△是より丹波市へ　凡て十八丁
丹波市　採の本より是
宿あり
○大和　社　丹波市より北丁北の南
大和社　大国魂神社
●法実寺　石鎚より廿八丁程西なり
実相院と云　凡十七石仏本宗
旨と言　至徳寺開基
●釜口山　石鎚より八丁東の
山なり

金剛界院長寿寺と云弘法大師
開基 本堂孫庇 鬼深堂
不動堂 地蔵堂 徒擄 結守
社 僧房十余宇ある紀伊名所旧
志言字ん

□ 柳本 丹波道より壱里宿あり
織田乱記考異本ある
是より南へ十八丁ばかりゆく
名居なり

● 完師兵庫助社 乃勝より東乃
山際みな○完師山○老白山
○ひだり ● 弓月寺 ひがしの東なの山
北名所なり

○ 着塚 大和国山辺郡柳本堰
▲ 芝村 町あり 茅ヶ宿原なり
織田考異本ある志ある地

□ 三論 柳本より壱里宿の産物素麺之

△町へ入てる居あり是より三論社
のる場なり東へ行半ば丁斗ゆ

● 大御輪寺
一名慶寺 慶寺法師開基と云
堂二宇 塔 優摩堂 鐘楼
ある紀伊名の内分なり宗旨ハ
真言 境内より二福若宮あり
右田多根子命之

● 三輪明神 二十二社の内大和国
宮なり

大神大物主神社式内大己貴命之
摂門 神戸 神戸五〇 神社
と稱也 厨所 宮殿
社地百七十石 除神主家 社家
称宜 祝部あり 正月朔日神事
むしい勅使 〇
〇宮〇 猪井社〇 拾木社〇 穢戸
社あり〇 ちろ〇 此拾摂門の下に
あり〇 玄賞房社の ちろ〇より
七八丁東小の玄賞谷 みあり
玄賞僧都源極此社なり 系
ちろ〇

△明神より南へぬけて正丁 夢殿
●平等寺 三論 遍照院
本堂 護摩堂 法華堂 祖師
堂 達摩 達磨社 古社
八十石 神社の内 ちろ 僧房十二
宇 宗右衛言 〇大師堂遺あり
△此より 食屋村へ出て本道 ちろ
食屋村此より 射水の宮あり
磯城御縣神社 ちろ
食屋村 茅屋 ちろ
山村 海石榴市此古社あり
○ただ ちろの記 村の内の

○金屋村より益田村までの路
二論山南北尾路を登るなれと
○二論が路○佐野の路より益
▲益田村 二論より三里宿あり
●茅ヶ原山より茅やあり 茅やあり
▲脇本村 茅やあり
▲黒路村 ちや屋あり
▲出雲村 茅や宿あり
□初瀬 益田より三里宿あり
初瀬川 泊瀬 長谷とも云く 奥之
の石仏とよみしるし。もみぢ乃
里藤垣内。ちりせ川。古川乃名

二本の杉。長谷。秋はもみぢ
糸色より紅し。町のはしに紅
葉の大多居なり
○長谷寺 二十三所第八番
是山長谷寺と称す 延
喜式内長谷寺となり 天武
帝の勅願にて川原寺 法隆
法師法乃明達師なり 又天平
七年聖武帝の勅願 法乃
上人創立 元亨釈書に
い法乃仏人開基とあり 二王門
額長谷寺 堂と二所の

郡の中と紀年堂観音
講堂小池坊　其外佛堂十に
字　三重塔　経蔵　小社多し
る僧房全多し　所紀寮と
学寮教百ばかり古紀又百石
宗旨宣言新義九年ふるり。
地蔵祠。白社天祠。ひのさご社
。奥院。黄色梅。能因塔。紀
。紀寮　社務　名所多し先
の比い立寺より七十又日吉神
より延し
△是より坂勢系宮とるとき也

越とも云あり是まで系
村ゆそ
△多武峯へ参ふい義是る村を
りぐり過るみなく不より南れ
を掘井町へ出るに程義是もか
さくなれとせ町半之
△長谷九奥ゆ家生ふあり長
谷より萩原村又十町萩原
村より赤畑村又十町赤畑村
より宮生ふく又十町をるり
佛壇ばかり山坂なり
宮生

龍穴神宮寺と云弘法大師開基
備堂八字又重塔　小社又末
僧房二字ある処百石宗有寺
○龍穴神社あり

△是より長谷へ戻る

△又是より日張山迄五丁
字絶松山へ出掘井へ出ると
あり宝生山より松山へ掘井
中ごろ法九七里余ありし
山日張山の中掘姫とて
ありし中掘姫とて
紀伊国那賀郡

縁起なり

掘井　長谷より壱里廿町
宿なり
山町大坂より八せん越なり
南部より弐拾里への所と十丈
宝なり

△さくら井より西南へ小路十三町
丁行て安部へ入て弐拾丁
巻九る所へ出る小路を山路へ

安部山　此所に
紀伊滝宗敬る　本堂弘法敬
八本堂又珠　本ゝ大日堂
建る社　掘穴○岩屋二ヶ所あり

当然の石宗旨なり言語絶全十字みな
孝徳帝大化年中創建し地と丹
後国切戸奥院永井を天下二
文殊なり○仲九塚なり
△此寺の奥に流れより山越に
武器石に多居一里七八丁斗
○石多居　十丁余もより
大多居なり額徒器大拾枚
●こうたつ山に多石あり
●高野紙書　書写るなり
より五里七十八丁
▲東に茶屋　武器門茶屋
茶屋あり

武器入を出越を行人山不
より食物を用意して行べし
△武器出門入どみより一行
こちら山茶屋より北に南へ行
勝作越なり○山茶屋より出門内
一女と不入女屋なり別なり
茶屋なり素麺を問べし
○武器　山より五十丁余
大徹寺徹なり
妙系寺復国院なり釈宗意
和尚建立総社延長記年碑
帝徒八住職と称る　篠堂

常行堂　法頂堂　本殿堂
後戸堂十二宇　法華経堂　鐘楼
法堂　僧房巳十宇余○十字坊
義家の源義経かきたる
古跡なり○もと二王石金宋者の
天竺より　後山・後峯・後武峯・
武峯○龍岳といふのうち寄ね
此峯より見れば卯龍の似ると
と名付しとぞ○みぢみ湖を
ちゑ系集り

花ぐもりさぞ山にいろうくく
みちみ湖の月をなぐらよ

修門此観音の表武峯の素玄
法師み若ひ〜と見くられば
○花此中宿とりの花を井雅章
この寄ゝ弱来て実も撮此峯つぐは
のそろせ此花の中宿との絵より
起る○花の比○紅葉此比系を
言語みのべ〜○本社の西り
アラ樹ゆり天中玄双此名木な
宝蓮和尚庵士より拾来と云僧
人○塔婆上人墓の西の大門乃
外西小六丁ヨ上り念仏窟
剃髪なる上人堂二宇僧房五六

たつの川
こゆり山
ゆうそうじ
ゑめいじ

たつのみや
だいこうじ
たつのこ

字あり及すゞ掘れ並木なり
○如是禪師れ墓い東れ大門の
れと東七八丁よあり俗よる及と
い禪師お拾る えとくるゆへ
祭りたるなるべし○毒ムれたる
さりい吉野よりい又七日も逗
△西れ大門のかをたくムよと
里約ゞそ野越こそ吉野及ん
上市よそ二里余ム坂及あゝ
食物不自由なり
△西れ大門よりをぐみ下へ下を
ゞ呂ちへ壱里なり

△低し呂ちへより呂ち龍門れ京
橋ちへ寄り妹ゞ除を越上市へ
出て吉野へ寄り下向よい峯坂
より心東野へ出てもよし絵図
の約束考合をゞし変よい
そ野越上市へ約下向ム呂
ちへ寄り帰絵紙ちるを
龍門ち　龍門滝なと及ちく
ゞしよるまんちい道物を
上市　美武器より二里余
宿家なり吉野川縦横あり
△代不東より西へ及ちり紀見海
及なり東いる見越こそよ

△町と南一町にて吉野川本流
揚げ流しとふ向ふの岸は
級貝村あり。いりせん。みこも
星山あり。丹治村とぞ。
○さくら田。七まり坂。ほそろ
けれ社坂をより見せば六田
よりとる道と行けばなり
○水揚 揚の貫一名をあるより
九ようの道三丈より六十八九日
田さうもむしろ七十八日とも
ゆくゆくとも七十日ばかり
夏の宝曜みよりて
遠く幸もなく九月さうけば
とふいみ年より義を尝け遠の
さうをつかなり

□吉野町 上市より三里
六田より北十丁
宿多し 紙屋 二階二階なり
見れば。多くは大家八乃行者
基隆昌れあり。大坂 ○葛
籠細工 漆塗れ美物 紙 ひく
たびこ名物 ○六田よりの道より

道上一

そど。六田より安禅寺まで百丁
北ろ下と上と廿日ばかりも遠く
星も夏の宝曜みよりて
遠く幸もなく九月さうけば
とふいみ年より義を尝け遠の
さうをつかなり

□吉野町 上市より三里
六田より北十丁
宿多し 紙屋 二階二階なり
見れば。多くは大家八乃行者
基隆昌れあり。大坂 ○葛
籠細工 漆塗れ美物 紙 ひく
たびこ名物 ○六田よりの道より

義王堂までは同小児とも撰乃
黄代撰ようとそしるあり
○山のる社名不古弘小冊あり
ちつ〜がう吉社名不記ふく
あり考べしちづく名目づり
を十が一とあげていで
法私山所は東のゑなりをとじ
みい○美辻○大橋○赤ゑ〜に
村山義光墓○関屋は義
○羽は名居
名居名を武蔵天ちを武蔵
○二王門 小白あり

○義王堂 みなより十丁ゆ
南向なり
圓社山金峯山ち開基不詳
本尊義王一体い弐丈六尺一体い
弥勒観音弐丈八尺一体い弥勒
弐丈二尺ち仏弐丈三百石修房十
八宇備社は祝家十家余あり
南山天台真言宗なり大峯
は先達あり
△足より安禅ちまてより坂あり
酒食代拵べし○義王堂は本尊
○八本橋○玉石○威徳天神
○實城ち 本堂は西向二十丁

金輪ちゝ　後碓胡　後村上の
二帝又十年余皇居まします
宮物語　不比人を法華ときと
ふ○金輪ちゝ　葉入　後碓胡
帝勅作　ちゝ　たてまつるべし
○書紀ち○稲荷社○朝原天
祢○皇天ム○熊天ムとゝく
居まします
○吉水院　甚徳
さち源義経潛居せらるゝ　本ゐ
後碓胡帝も宿らせ給ふ　宮物
古弘法

○灯籠辻　△南ゴいれちくみ
○橋本坊　入豊臣ちゝ大閤秀吉建
○佐太ム○佐抱明祢○紐振ム　八幡社
○勝手祢社
●如来輪寺　八丁ゴり東の谷口ゝ
勝手社の門前より入る　後碓胡
帝まします　橋ゐり　捕ム城ゝ　水まします頭
名ゐりムまるゝ●橋本まします宮●家
谷入口ゐり
○行林院　弓まします中興行林房の
古ゐり　別行林房まします其外弓
衡の名ゐゝ人まします来納せゝ弓

○数多み○橋ゝる○天王橋○大梵
天王社○猿引坂○白ゝ稚兒○
猿引者為所○禅宗寺○布引橋
○瀧さゝら○蘆の尾坂○子安塔
○世ゝる○ゝ社尾ゝゝ
平忠盛朱絃の塚なり○八丸墓
○ゝる社ゝゝゝ中洗寺義経乃
戦場なり○元やぐゝ○龍返し
○ゝ社踊
○八王寺○ゝゝ社ゝゝと雲井
さゝゝゝゝ
○子守社

○めぐり地蔵○城橋○白銀獄在義
○ゝる夢上人堂○牛頭天王○ゝる
城ゝ○橋谷○大坂屋○つゝじが岳
○金精明神
○獄接塔○天川伏拝不
○安禅寺○奥滝○苔清水○
西行ゝ居ゝり
△安徐ゝゝみ茶ゝりとぐれ東行
い大峯ゝゝゝゝ上ゝ六里なり
ゝ行ゝ秘不ゝゝゝゝ変ゝゝゝ
ずゝて雖不ゝゝ足ゝり女を
禁ゝ

△又安禅寺の茶屋のまへより
右の方の瀧の巡りを登る
案内者なくしてべし 食物不自
由なり○瀧のもとにて○宮瀧の
○茶屋○拝殿の宮如元猶当の
右壁へ戻るもよし○宮瀧より
上方へ右壁川の添て下るもは
瀧の方名不詳
△山上へ行ず瀧のもとなく
い安禅寺へ出るよりもとの道を右
壁所へ出るべし
○右壁所へ出て

△上田村へ下る道を長野といふ
六田村まで二十丁ばかり山を
ちくみて小児さく黄瓜を
植させるなり風流のなり
○茶屋橋より右の方大石道行
但し上方へ下る細い所なるか
ゆり坂右へ下るなり
○日本ゲ花○蕎麦の茶屋○松ム
茶屋○一ノ瀧王大六ムラ○焼ガ
畑ところ○一ノ瀧法○一の坂
▲六田村より○所口から二十丁宿あり
山村の小の出口より右壁川渡舟あり

柳の流れ流れて○此所柳の名木
なり○此所
●天川辯財天　下市へ三里　吉野より七里
天川の堺の西村なり　本殿　拝殿
厨所　小社十二宮○諸堂十一區○
塔一基　僧房二百余軒
慈恵　弘法大師の建立なり
●丹生大明神　六田村より四里　吉野より四里
二十二社の内なり　丹生川上神社
丹生庄　丹生村なり

〈吉野より六田村より先
丹生へ参り　天川社へ
参り下市へ出て　粉幡本村へ
出べし

▲小六田村　吉野川の小岸へ

〈柳の流れ　小岸と川上へ二
三町のぼり　左の方に
見あり　壺坂へ
なり　食物なし
〈本尾の紙旅なり
●比蘇寺　比蘇村より小六田村より
十丁ばかり　壺坂一里ばかり
吉野より　規先なり　至徳吉

多社は建立昔の門額の紫天
八一と云文字なりしは玉林物
みな名分なし之を真の佛堂
再建なりきと云禪宗なり
△此まよりる佐村を過り壺坂
へ行り清水谷なる山出る壺
坂北辛いなる山をみるを
△六田より新堂村をるく

□越部　六田村より十三丁南の方
紀伊及山岳あり

○古田村

▲接垣内村　此所より東へ出る路ハ
金剛山なるべし行る山あり
左へ行へ右へのぐりて

○芦原村　坂とのぐりて

▲薗原新　越部より一里
茅屋あり

▲清水谷　芦原新より北六丁
岩家あり茶屋あり

△此里北南の入口より右北方へ
よる左あり坂を八丁のぐりて

○壺坂寺　清水谷より八九丁
二十二町の奥六畝

南法華寺と云ふ本堂　観音堂
堂塔多し　僧房十余宇
大宝三年秘基大徳建立
る紀又十石宗旨を言ふ
○此ふとくみ石佛百羅漢あり

□古佐町　清水谷より又六丁南の方
捷村也拾軒屋居城なり

所廣し城いたはらゑ十丁余
南に此峯あり名城とす
る名一と雲鞭ともいふ名あり
●子孫なる山の中に三〇あり洗
所雲あり

平田村

去佐ゑ廿丁余
茅ヤ葺

△此所をぐみ小へ紀が八木村迄
なりたるより山とゝろより右へ
紀ヒ擂る〳〵紀なり
●山名帝王此陵多し●平田村
の梅ゝゝふる欽明天皇此陵と
此陵より中ゝと石像記編あり

尊像なる記是だゝり佛ゝゝ是
〳〵ど大和志に欽明帝陵に石
龍仲二ゝりと是〳〵大和名所
記に鬼此首四ゝ平田西今
なりてもゝれど素ゝゝる小延宝の比
ゝ此石像ゝゝ首平田の
中に是〳〵ゝ紀鬼此首四と書
したゝと是西二編ゝゝ是〳〵
出〳〵此陵に西ゝる在享保此大
和志に二編と是西と奉又二編
頃出〳〵記弁ゝゝゝ甚古物ゝ
是ゝゝ

●鬼丸雷張●鬼丸廻板は名ゟ
みあり石摺ゟ

▲天王茶屋

○播寺　播村にあり古佐ゟ
佛殿に安部清明上宮殿善摺ゟ
ゟ　本堂　志佛堂　観音堂
仏金一ゟ　聖徳太子遠忌之宗
制天台●古解ゟ
●川原寺　播寺の小二三丁右弘法
弘法大師建立ゟ

▲岩村　播寺より二三丁古佐ゟ一里半
宮殿あり茅やゟ
△前に古城に戦ゟ在あり

作越ゟ　△後ゟ　三里ゟ
○岩ち　所ゟ岩ち名あり
二十二不角七丈
東光山龍蓋寺珠院ゟ
蔵潤仏遠忌力士門本堂観音
祖師堂二小社　仏房一ゟ
ゟ　仏石宗旨ゟ言○二月　和年
二年三年日ゟ　男女共又業
尼除ゟ　系猶多
○龍名寺　龍名村にあり
今釈迦堂ゟ大むゟ元真ゟ
山地みゟ龍名ゟ
▲龍名村　茅やあり

○八幡宮。○龍田川●竜浦寺
●雄滝堀江もとし。竜浦村
○龍田大明神 民村より十丁半
龍田明神社四座式内龍田坐
神後 拝社 末社又十余 祝部
二家
○番久山 龍田社より十五丁半
天のうぐいすとよく
ちる紅 番山ちる又い真葛ちるらん
本堂又孫 住彩堂 接摸
仏金七字 ちる紅三千石宗右衛門言
○うぐひす。○そらるしゑ。そらさ
あらりなりあらしもよ 万葉ノ三つ山之

八木町 番久山より廿丁半
宗家筆屋多し
△此町大坂よりいせ屋と又南北より
右壁屋十又字なり 大坂一十里
京一十六里 ろ壁一十二里 右壁
六里 伊勢山田一廿七里 堺一八里
○二つ山此町北二方より西南なり
祖屋し。●今井町 八木より丁半
△此町下又ケ家屋なり八木町北
紙多べし 紙屋山を委し
●久米寺 八木町より廿五丁西南方
奥院と東塔院と久米仙人
遠忌 本堂薬師 多宝塔

護广堂　地蔵堂　地蔵堂

種樓　熊野社　僧舎一宇

主家僧舎一宇　久米仙人此寺と

云　延長年中弘法大師しるして

建立し　時代年中より諸

国巡礼二義寓居の所　絶壁に

大日經の大塔の石板七十六

枚あり　しるしし　此寺より南十二三

丁より益田池の堤に跡石あり

俗よび石舟といふ　二丈余

丈余上面み完二つ　名み尺巾方

み　堤内の入る完なりなし

堤跡い性灵集より西

右祥茅寺　ちくら村にあり

久米寺より一里半余

茅寺と金剛寺流　没に角延生不

なり　補堂　ちくら村より二里

天寺　ちくら村より二里

本堂一宇　僧房六區　大衆坊

造あり　金剛と大宿坊なり

○菩提寺　○　物隙岩屋　○天王

社なり

金剛と　ちくらより一里八木村より八里余

葛城の南北に連一の峯

一上と又一条と法論す和泉河内

の境と　ちくらより　と　ちくら

金剛山寺一名宝山又名天竺寺
とも　役小角建立　本堂二尊
法起菩薩　花王　不動尊
光和弘法大師　大宿坊
小堂二宇河内国丹南郡十石
宗右衛門言大和より五町
あり△長柄村より五町朝原
村△南の方より五町石川
郡△西より五町二筋
あり△東より五町二筋
難所なり▲河内より五町二筋
あり

●一言主社　楠根村あり金剛山より
楠根村へ一里又十丁余

右に弓みかつぎ社とよめり
大社なり名所也●此辺ハ俱戸
羅社流あり
△右又ヶ原へ至ハ先ハ木村分
今井へ又丁　次と久米寺一丁
次と吉祥寺一里ハ次と西間一里
次と金剛山一里　次と一言主一里
次と山本村一里　次と西村一里
本屋へ出るより此又ヶ原ハ
木より出るとも西村へ出るとも
一日路の所なり後号ハ
ハ木ハ宿せるし

みなとてう

□高田村　八木より一里十丁
宿あり
△此村より西へ行べき伊賀越の
道筋なり小へ出る小岡谷ごえ乃
道あり●此村小橋本村彩
況るとて人丸墓あり
△南麻呂へ行べき所の成美此
を西へ出るなり

○南麻呂　南ノ村なる田より一里半
宿家あり茅や瓦
二上山彫刻なる石法花塔
推古帝廿年磨古親王
河内國山田ゆかりと自風二

年今此地に遷る故小角
此宅地なり　二王門　本堂　金堂
弥勒　講堂　三重塔　小堂数多
あり　運慶の曼陀羅堂なる石なるし
僧房三十余所○奥の院弘法
ゆふ法花自作の像あり其外
契宝多し　弘法二百石宗旨い
其言淨土流之中相脈法如尼
の忌日　正月十日　十日　絶法書あり
●南麻呂口神社　彩宮　●大澤王子
塚　二上山上にあり

○此辺用茶屋　南ノ村より二里

○達摩寺　西六分二里ホ

当寺ハ遠江国二十石宗旨

禅宗臨済宗遠江ノ○遠

広塚あり　東福寺惟肖和尚

墨蹟あり　●敬光寺　臨済宗遠江

禅宗二三丁西ヨリ

△ヨリ北ケ谷のぞきのゝ分ベし

●大福寺　菊尾ノ谷ノ天村ヨリ

満願山金光院遠江ノ国ヨリ八十丁

臨済宗遠江四石廣瀧寺

ヒノ中堂茅仲小堂僧房六

宇ノ外二十石宗旨ヒ言ヲ

●天地山法樂寺　西田村ヨリ大福寺ノ

東北十丁ヨリ　臨済宗遠江ノ開基　本堂記書　僧房

一宇ノ外二石ノ外余ヒ言宗

○山名山孝靈帝北の廬ノ宮ノ

社あり

●廣瀬社　川合村ヨリ遠江ノ社ハ丁

大福寺ヨリ二十八丁

二十二社の内廣瀬社和加宮奥宮命

神社式　○廣瀬川

●願安寺　法華宗の東一里余

願田村ヨリ

一石無禄ノ又無禄屋場ヒ

臨済宗遠江ノ達ヒ中堂記書ノ外

十二石宗旨ヒ言律ヲ

□龍田町　道二丁ばかり距十八丁
宿数軒あり
○新龍田社町の内を龍田社領寄(?)
○紀氏の名所也　根ねもあり
○二宮社　○神ぬき　○平群山
いかるが　○葛城小川　○龍田川　○龍田
山　名所多し
△龍田の本宮を此村より信
貴山と為へ参り七又龍田へ
りぐろ也　右のり継来て二里半
●龍田本宮　二十二社の内之此村より
龍田町より壱里半
龍田坐天御柱国御柱神社二座

龍田比古　龍田比女神社
社領十二石　小社新表あり
●信貴山　之此村より十二丁
朝後園孫ち　社へ社僧　明蓮上
人建立　本堂昆沙門　僧房十に
ゆる　領十八石宗旨真言　慈徳
寺古跡　○大塔宮　へせられる
松永ぶ城跡　山ぶしいでき
●そもみ汁尾　ちゝあみ
ごめのやうなる物　石みもあ
らど
○法澄ち　龍田町より十丁ばかり
那ちく一里半　内ぶ茅屋あり

四名班超ハ又七歳ニ至ル聖國ニ至ル
給ル宝龍寺ニ入ル推古帝十五
年厩戸皇子建立 金堂 講堂
入堂塔 東院 夏屋 西方堂
其外堂二十宇 僧房六十餘宇
○堂の業所 西小の方に所ありし
○金利堂に東より毎日午刻金利
移る。院内番所 其外宝物
ある故に名宗旨法相天台真言兼
学する僧の伝法ニ来る建立ニ後
学ぶ人とし法隆寺ニ住する日本
記天智帝八年十二月学ぶの事

又西ハ類聚國史百七十二ニ天智
九年 法隆寺ニ燒一宇不残ニ
今見る所法隆寺ハ挽割ル

法論ル 法隆寺ニ六丁ヨリ東
ニ井村ニあり
一名ニ弁ル法林ニ本堂 ニ金
堂 僧房一宇 ニ皆人足ニ建立
宗旨真言

法起ル 西本村ニあり
ニ井ヨリ八丁東
一名忍ル又池隆ル本堂 ニ金
堂 ニ皆人足ニ建立宗旨真言律

松尾 ニ法隆寺ニ十八丁山尾
補陀落ニ松尾ル観音堂 男子ニ十

二厩除尾あり二月午日　二重塔
鎮守　松尾社　僧房十一宇　金人
観音菩薩　百石宗旨　真言
○大堂先達あり

△矢田　山中ゑびあり

○矢田寺　松尾寺より五十丁かなた
西へ一里　矢田村にあり
金剛山　本堂地蔵　満願堂
かと小堂九宇　鐘楼　宝蔵僧舎
十六宇　天武帝勅願所　智通
聖人ゑ開基なり
●東明寺　ひがしにあり

□郡山　矢田より一里続宿
松平甲斐守居城なり町屋

京へ十二里　大坂へ七里　南郡へ一里半
△山町より西へ　右に出あり　竹川
鬼瓦　岩屋　霊宝　ゆうが
ゆうべ　絵馬を考へ行べし
●竜川　郡山より三里
みえちゝ　女のごとくなり
本堂　観音堂　鎮小角堂　弘法
大師堂　鐘楼　石十二重塔　僧房
六宇　宗旨真言
●行基　生駒郡里村より
郡山より二里
行基開基　ゆえ行基　達磨堂
の下に納む　奥の院より行基母の塚

あり十廻光善薩と云菩提樹と
号と後小南門院とゝろとゝ
○生るゝとゝ此生るゝ岩壺
とて石門門ありて中の空虚なる
石出る花生水滴みを中草み
所謂禹餘糧○滝の石番石
レキスティンと云石も出る湖と滝を
花門水門ありあり
●寶山寺 郡山より二里余
生るゝ山の岩屋とゝ宗永寿仲
宗山上人開基なる不動の像
えのしりと後小南門院

般若門岩屋あり宗旨美言律
△此寺の河原繁花と越花あり
●霊山寺 郡村より郡山二里
真言山と云中堂美仰二重塔
紀基堂 僧房八宇 紀基開山
寺外百石宗旨美言○大峯先
達あり
△此寺より美仰寺一里半余
○西の京美仰寺 郡山より千五丁
西小西の京とゝ別二西京寺
白鳳九年草創と孝徳帝寺
の名ゝ

ものゝ。金堂講師 東院 六宗
塔 僧房六宇。佛殿石あり
像丈高十七尺脇ゝ光明皇后と
又三月朔日より七日まで造花会
法華あり。三百石宗旨法相
宗なり 講堂八幡宮大社なり
門外に多く教学佐より建て来り
門扁下那智ぞまらせもゝし
より此所よりもまゝくるより 縁起
丈又西

○拓植寺 第四番 ゆより又六丁ゆ
又第村にあり
唐拓植寺と門額あり 龍眼寺 又建

初律寺 天平八年 聖武帝勅
願 和尚建立 金堂釋迦 講
堂 食堂 又塔 経蔵 宵索
堂 御影堂 戒壇 僧房十二宇
寺領三百石宗旨律宗なり
●此所西の宮茱萸ゝ池あり
蓮花帝此陵あり きみ此所に
古陵 古墓多し

○菅原寺 拓植寺より十丁六十間
菅原村にあり
菅原光寺 金堂 弥陀門外に菅
公此所にあり 経基の開基なり
寺領三十石宗旨真言律之山地

蕃系氏の先祖住居の地なり

○西大寺　菅系より十丁余小東南郡より一里西なる村なり

孝謙帝神護景中建立開山釈乙昭なり中興開山真正菩薩なり本堂釈迦　四天王　鬼深堂　観音堂　多宝塔　浴室　僧房十五宇　寺領二百石宗旨真言律八月十八日より廿四日光明真言会○抑○老仏丹の始祖なり

○正月十六日茶供養なり

○秋篠寺　西大寺より十丁余西小北　妙隆村なり　大元堂　香水堂　本堂薬師

猪熊　僧房七宇　孝紀帝　桓武帝勅願所なり

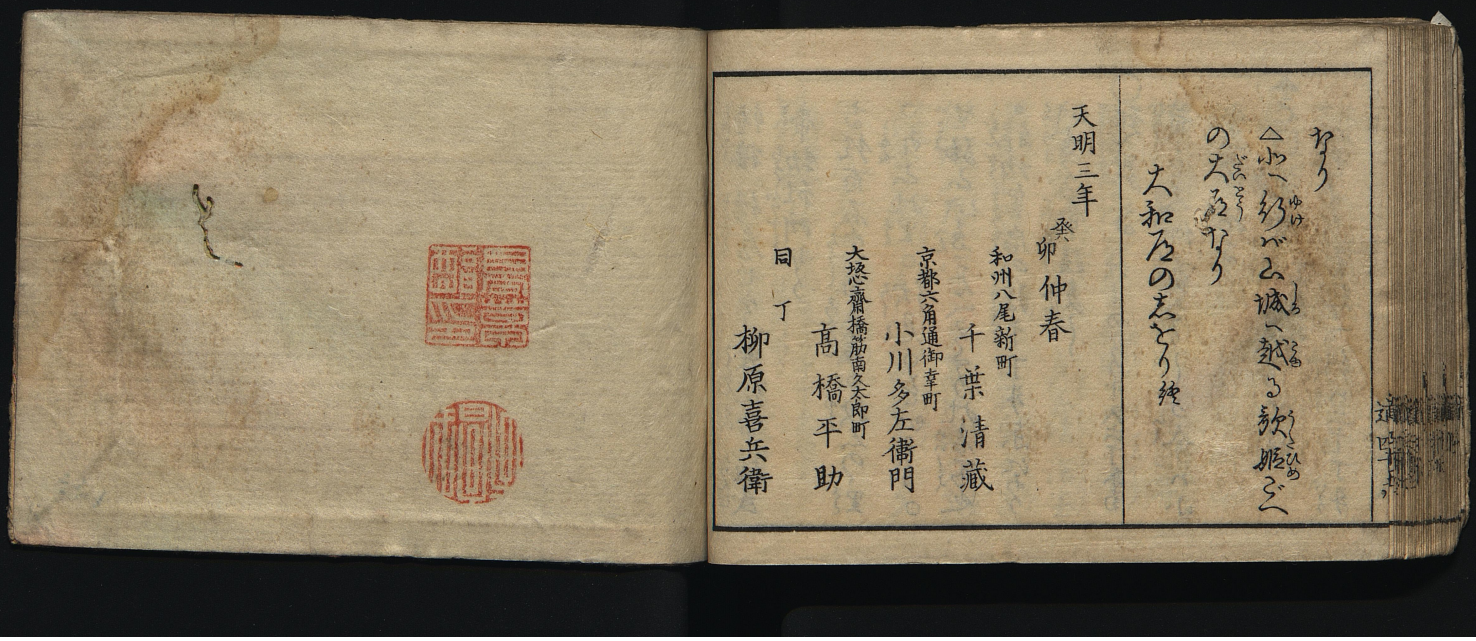
寺領百石宗旨真言○秋寺の里○みこみ里○伏見○七がまち○生るこいさ色見へまちみ名所也

●神功皇后の陵十丁乾にあり　山名ろ帝陵なり

○新屋昇寺　秋しのより十丁六丁東南　昔ろ大伽藍なりしが今は小堂一宇残る

▲こけ茶屋　新屋昇寺より五丁半　宿家あり

△芝より南郡へ約二十丁半



おわり

△小へ紛ひこむ城へ越る歌姫ごへ
の大ざつなり

大和屋のたとり終

天明三年
癸卯仲春

和州八尾新町
千葉清藏

京都六角通御幸町
小川多左衛門

大坂高麗橋筋南久太郎町
高橋平助

同丁
柳原喜兵衛